

平成28年度 第1回

“文化の香る街”
まつど

松戸の作家の個展



沙漠に甦る 200号(F) 油彩

大隈武夫—共に生きる—展

会期●

2016年6月21日[火]～8月21日[日]
(平成28)

会場●

森のホール21 アート・スペース
(1階エントランスホール内)

〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀646番地の4

電話047-384-5050 <http://www.morinohall21.com/>

開館時間●午前9時～午後10時

休館日●月曜(7月18日は開館し、7月19日休館)

観覧料●無料

主催●松戸市教育委員会

後援●JOBANアートライン協議会

お問い合わせ●

社会教育課美術館準備室 Tel. 047-366-7463

松戸の作家の個展とは

松戸市の文化芸術の振興を図るため、松戸市在住・在勤美術作家の活動を市民の皆様にご紹介する事業です。

私は佐賀平野の農家に育った。終戦の年、田植の頃は学校が一週間休みだったため、田植をしていた。新制中学になり、理科の先生に連れられ九州大学へ魚の研究に出掛けたり、二科展を観に行ったりした。一年の二学期から、美大出身の新人の先生が現れ、東京の新しい話題や水彩の描き方、絵が好きなのは新聞の大きさに描くことを教えられた。次の年には、その先生の友人が博多より現れ、私の家の隣に下宿しながら東京や博多の絵の状況等を話題に私の父親とよくお酒を酌み交わしていた。中学二年の冬休みに初めてサムホールに油絵を描いた。

高校一年のとき、一週間かけて山村風景を油絵の具で描き、30号の作品を制作した。倉敷へマチス展、高校二年のときに先生とピカソ展へ出掛けた。高校三年の夏休みは一ヶ月間、東京阿佐ヶ谷美術研究所の一番後ろの席で頑張って石膏を描いた。その時、一緒にいた人たちが現在の日本画壇の中心になっています。

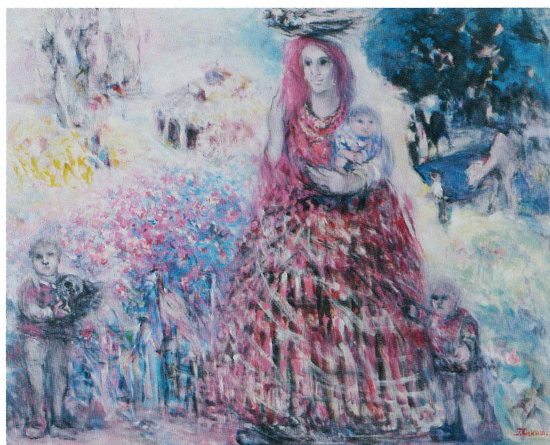
描いたり、消したり、又描いたり、繰り返し、諦めずにより美しい形、色の組み合わせを求め、絵を描いています。

List

1. 沙漠に甦る
2011年/200号(F)/油彩
2. 駱駝を飼う沙漠の村
2015年/100号(F)/油彩
3. 駱駝祭りの朝
2016年/50号(M)/油彩
4. 砂漠に生きる
2014年/50号/油彩
5. 松の木 (松戸岩瀬)
2015年/10号/すみ
6. 祠のある風景
2015年/10号/水彩、マジック
7. 芦田家を描く
2016年/10号/色鉛筆、すみ
8. バルーン佐賀大会
2016年/20号/油彩試作
9. 日の出
2016年/8号/油彩
10. 風の日
2016年/10号/鉛筆

Profile

1934年 佐賀県川副町早津江に生まれる。
1955年 第40回二科展初入選。
1958年 多摩美術大学卒業、以後松戸市に住む。
1961年 野田一中教員になる。県展知事賞受賞。
1966年 二科会会友推挙。9月-11月ヨーロッパ研修旅行。
1971年 二科会会員に推挙。インド・ネパール取材旅行。
1974年 教職を辞める。県展実行委員長数年勤める。
1976年 銀座サエグサ画廊個展 以後10回開催。
1979年 千葉県美術会理事
1994年 二科会事務局長(4年間)
1995年 大隈武夫油絵展(松屋銀座画廊)以後4回開催
1996年 千葉県美術会常任理事
2001年 月の沙漠記念館企画個展 以後4回開催
2002年 千葉県教育功労賞(芸術)受賞
2012年 公益社団法人二科会理事
2013年 地域文化功労者表彰受賞



駱駝を飼う沙漠の村 100号(F) 油彩



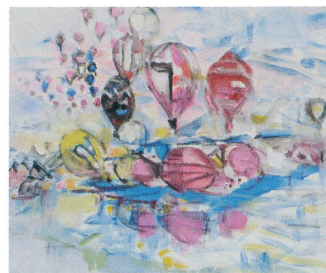
駱駝祭りの朝 50号(M) 油彩



松の木(松戸岩瀬) 10号 すみ



芦田家を描く 10号 色鉛筆、すみ



バルーン佐賀大会 20号 油彩試作

次回の個展のお知らせ

2016年 8月23日[火]
(平成28) ~ 10月23日[日]
色彩のメロディー
田中雅子展

発行：2016年7月7日

編集：松戸市教育委員会 社会教育課美術館準備室

制作：半七写真印刷工業株式会社

Access

新京成線「八柱駅」・JR武蔵野線「新八柱駅」南口下車後、徒歩約15分またはバス(新京成バス 小金原団地循環・バス案内所行、または新松戸駅行 約5分「公園中央口」下車、徒歩約2分)

※ご不明な点は、森のホール21(松戸市文化会館) TEL 047-384-5050 までお問合せください

※森のホール21駐車場は大変混雑致します。電車・バスをご利用ください

